

令和 5 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473701256	事業の開始年月日	平成17年3月1日
		指定年月日	平成17年3月1日
法人名	医療法人 徳寿会		
事業所名	グループホーム プラチナ・ヴィラ青葉台		
所在地	(〒227-0033)		
	横浜市青葉区鴨志田町758-1		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	18 名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員 計	名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	令和5年12月30日	評価結果 市町村受理日	令和6年6月3日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染症拡大もあり、外出や外泊の機会に制限がありましたが、5類感染症移行後は徐々に普段の生活に戻ってきました。面会規制の緩和や生活の中からお客様のマスク姿が減ってきました。屋外でのイベントや交流が以前のように活発に行えるよう企画・立案することで、お客様に楽しんで頂き笑顔が多い日々が送れるように引き続き支援して参ります。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町2 3 日土地山下町ビル9 F		
訪問調査日	令和6年1月26日	評価機関 評価決定日	令和6年4月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 当事業所は、東急田園都市線青葉台駅からバスで10分、最寄りの成合バス停から徒歩5分ほどの場所に位置している。事業所に隣接して、同一法人の介護老人保健施設がある。事業所は、鉄筋造り2階建て建物で、斜面を利用して建てられており、道路側から駐車場兼前庭を経た箇所位置している玄関が、2階部分となっており、裏手から見ると2階建てだが、正面からは一見すると平屋建てに見える。事業所の前は交通量の多い幹線道路だが、周辺には竹林や畑があり、自然豊かな環境がある。 【利用者の残存能力を生かしたレクリエーション】 利用者の残存能力を生かした取り組みとして、毎月利用者が職員と献立を考えて調理をする「お料理の会」を実施している。入居前には危ないからと家族に包丁を持ったり、火を使うことを止められていた方も、職員と一緒に野菜を刻んだり、味付けをする等の作業をする事で、毎日行っていた食事作りを思い出している。調理に縁のなかった男性利用者も、簡単な作業に参加をしている。また誕生日やクリスマスなどのイベントの際はおやつレクとしてケーキを手作りしている。出来上がった料理やケーキを職員とともに楽しんでいる。 【地域との連携】 法人理念に地域との連携を掲げ、開設時から地域の一員として自治会の様々な行事等に参加をして、地域の方と交流してきた。現在は地域では、清掃だけが再開されており、参加している。今年の正月には、自治会の獅子舞が特別に訪問して舞ってくれた。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームプラチナ・ヴィラ青葉台
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		○	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
		○	3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	グループホーム プラチナ・ヴィラ青葉台
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
		○	2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内に理念を掲示し、一人ひとりがその理念に基づき支援を行っている。地域密着型施設であること、地域の高齢者が認知症や要介護状態になっても住み慣れた地域で暮らし続けられる意義を共有している。	地域に医療・介護の安心と満足を提供することを掲げた法人の理念に基づき、開所時に作成した事業所理念は、「住み慣れた地域で家庭的な環境のもと、日常生活で支援を必要とする認知症の利用者を医療と介護で包括的に支援すること」を謳っている。管理者以下職員は、この理念に沿って個別ケアを目標に人生の最終章を利用者が生き生きと活気のある生活が送れる支援を心掛けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域へのイベント等に参加している。近隣地域の入居者が多くグループホームへの理解が厚く、地域の人々に支えら、地域の一員としての役割を果たしている。令和5年度もコロナ感染症による活動制限あり。	開設時から町内会に加入して地域との関係を構築してきた。コロナ禍以前は、町内会主催のお花見や運動会などの地域行事に利用者と一緒に参加をしてきた。地域行事も次年度から徐々に再開の予定があると地域の町内会役員から情報提供があった。今年度は、地域清掃活動が再開して利用者数名が職員と一緒に参加をして近隣の方とあいさつを交わしている。お正月には、町内会の獅子舞が特別に事業所を訪れ、舞ってくれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ制限の緩和となり地域イベントに少しずつ参加をさせて頂いている。沿道美化活動では入居者を一緒に行い認知症の方の理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様や地域住民による率直な意見を評価を元に改善への取り組みとして活かす働きかけを行っている。	開所時から自治会に加入して、地域との関係を重視し、積極的に地域と交流を図ってきた。コロナ禍以前は、自治会主催の花見や運動会、夏祭りなどに参加していた。今年度はコロナ感染症が5類感染症に移行後に、自治会の清掃活動が再開され、利用者も職員と一緒に参加をして地域の方と挨拶を交わしている。また自治会の獅子舞は再開していないが、お正月には特別に獅子舞が事業所を訪れ、舞ってくれた。地域の方から野菜の差し入れもある。	運営推進会議で身体拘束適正化検討委員会の報告をしていますが、単なる報告会になっている傾向があります。固定化している家族以外や町内会からの参加も有りません。時には各グループホームの家族の参加が見込める行事に合わせた単独開催や、固定化している開催日を変更して幅広い意見をいただく工夫を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所や地域包括支援センターとの連携を密に行い、施設内の空き室状況や利用者状況を細かに報告することで、地域の実情にあった支援を進めることが出来ている。	区の生活支援課の担当職員とは、生活保護受給者のオムツの購入やADLの低下に伴う相談に出向く等、連携して支援している。コロナ感染者が出た時は、横浜市から抗原キットや、手袋等の提供があった。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化の指針を設け、その指針をもとに身体的拘束ゼロを目指している。施設の立地環境が車の往来が多い道路沿いにあることから、必要に応じてユニット毎にドア錠を行っている。	身体拘束適正化の指針に沿い、拘束のないケアの実践に努めている。身体拘束適正化委員会や研修は、隣接する同一法人の介護老人保健施設と合同で開催し、委員会には管理者が参加をしている。委員会の内容は運営推進会議で報告している。利用者の向精神薬や、睡眠導入剤の服用について、かかりつけ医に相談をして減薬した事例がある。	身体拘束適正化委員会は、管理者のみの参加になっていますが、時には、他の職員も参加することを期待します。また当日の内容を議事録等で職員に報告し、情報共有することや、事業所内で拘束に当たる事例がないか等、意見交換されることを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待マニュアルは常に閲覧できる場所にあり、研修参加や意識改善する機会を作っている。普段何気ない行動や発言が抑制や行動制限につながることを職員に伝えている。	身体拘束適正化委員会と同時開催で虐待防止委員会を開催している。隣接の介護老人保健施設の事務長が講師となり、令和5年1月に、「高齢者虐待防止における不適切言動の排除」の研修を受講し、不適切ケアの自己点検シートを提出している。管理者は、職員に「最近どう」と声を掛けて、ひとりで問題を抱え込まないように配慮をしている。また利用者同士のトラブルには職員が介入して、利用者の気分を変えるように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について理解を深めるために研修など学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用契約書、重要事項説明書の内容説明を行い、当事業所への要望を伺っている。対応可能な内容については、管理者がご家族様に説明しご理解を頂いた上で、契約		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱をご家族様の目につきやすい場所に設置。面会時や行事等で来訪時に本人のご様子を伝えている。ケアプラン作成時は、ご本人やご家族様に意向や意見を伺っている。	家族の意見や要望は、面会時や電話連絡した際に、意見や要望について聞いている。運営に関する意見はなく、家族からは、好きな物を食べさせて欲しい等、食べ物に関することが多い。年1回、利用者の行事の様子や、写真を「ほんわか便り」として家族に送っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は面接やミーティングにて職員の意見を聞く努力に努めている。内容は、定期的な開催する定例会にて法人に伝えている。	職員の意見は、管理者が個別に面談等で聞いている。朝の申し送り時には、伝達事項を伝えている。定期的な職員ミーティングやカンファレンスはないが、利用者の状態変化などがあれば、その都度ミーティングを行っている。昨年は、高齢化や体調不良等で職員の入れ替わりがあり、異動や新規採用により、新たな職員が入ったタイミングで、業務の見直しをしている。各フロアの職員にスキルの差があるため、今後は記録の書き方等フロアごとに徐々に切り替え、共通の業務内容に変更する予定にしている。	職員間の意見交換やコミュニケーションを図る場がありません。業務改善に関する職員の提案があっても、意見交換をする場や機会がないため、実現に繋がられない状況です。そのことで不満などを感じないように、定期的に職員会議を開催し、意思の疎通を図る事を期待します。
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標管理シートで、各自目標を設定し、評価している。面接等を行い、目標の方向性や達成水準を確認し向上心の育成を図っている。	職員は年2回「個人目標管理シート」で自己評価をして、それを基に管理者が面談し、人事考課に繋いでいる。職員休憩室を整備し、休憩時間を確保し、オンオフの切り替えができるような環境作りに努めている。パート職員を含む職員に有給休暇のほかに年3日間の特別休暇を支給している。介護休暇や育児休暇制度も整備されている。定年後は再雇用制度を利用して嘱託職員として勤務ができる。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所の年間研修計画に沿って研修を進めている。コロナ禍もあって内部研修が主となっているが、対象は全職員となっており、平等に研修を受ける機会を持っている。	法人が研修計画を作成し、隣接の介護老人保健施設と合同で、職員全員を対象にした内部研修を実施している。研修に参加ができない職員は、資料を読み、法人にレポートを提出している。介護福祉士の資格取得には、受講料や交通費の補助があり、取得後は資格手当が支給される。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交換研修の機会があり、事業所の長所や取り組みを他事業者と意見交換や情報交換ができる環境がある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事業所への要望や生活歴、アセスメントなどからの情報を共有し問題解決し、生活の質の向上に努めている。人と環境を大切に考え居心地がいい環境づくりを進めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面談等でご本人様やご家族様の思いや希望を伺い、その後安心して生活して頂けるよう支援方法を考え取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様との会話や電話や面談、話し合いの場を通じて真のニーズの見極めが行えるよう、アセスメントや関係機関との連絡調整を行い情報等を得ている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の出来る事、出来ない事の把握を行います。個々の状況に応じて生活リハビリとして食事準備や後片付け、洗濯、掃除等を見守りながら一緒に行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の様子、体調や近況について、細かくご家族様に伝えていきます。往診医や訪問看護を含め、皆で支えあう関係づくりの構築が出来ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状や手紙などを親戚やご家族様、ご友人などと交換することで絆や関係性が保たれるお手伝いをしている。	年末には、利用者全員がちぎり絵や塗り絵で年賀状を作成し、職員が投函の支援をしている。携帯電話を持参して、自由に家族や友人に電話を掛けたり、充電をする方もいる。新聞を読んで気になる記事や毎日の献立や自身の排便状況を正確に書き留めたり、日常の気になることを日記につけている方がいる。昭和の時代のお笑い番組を動画配信やDVDで楽しむ方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同志の関係性を見ながら、時折席替えを行い色々な入居者様同志の関りが保てるように配慮している。また対人関係が苦手な入居者様が独立しないように交流が図れるよう働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後や入院後も関りが保てるよう、ご家族様と連絡を取り合いながら、その後の様子を聞き相談にも応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成にご本人様、ご家族様の意向を聞き取り反映させている。ご本人様から意向の聞き取りが困難な時は、職員間で話しあったり、ご本人様の表情や行動から汲みとり、利用者本位のプラン作成を心がけている。	入居時アセスメントで利用者や家族に生活歴や嗜好、得意なこと等を聞き、介護計画に反映している。自分の意思をはっきり言う利用者が多い。「お寿司が食べたい」と要望があり、出前を頼んだ。また、新聞のチラシを見てもらい、食べたい物を聞く事もある。入浴等、職員と1対1になった時は、利用者の本音を聞ける機会となっており、時には不満を口にする方もいる。重度化して会話が難しくなった方には「はい、いいえ」で答えられるように尋ね方を工夫したり、表情の変化で推察している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様からの生活歴や生活習慣を伺っている。何気ない会話の中から情報や発見がある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録や日誌から生活の証を詳細に記録している。また、ご本人様の言動や発語など客観的な事実を記録に残している。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族のご意向やニーズに基づいたプランの作成をしている。日課のプログラムに対する評価は毎日行い、ケアプランのモニタリングへと繋げている。	1階は居室担当制を取り、担当者と計画作成担当者がアセスメントをしている。介護計画作成に当たっては、利用者・家族の意向や要望を聞き、医師の意見なども踏まえ、計画作成担当者が介護計画にまとめている。介護計画のサービス内容と日々の介護記録、管理日誌、往診記録をカードックスに挟み込み、職員は記録をする際には、介護計画を確認している。実施したケア内容はモニタリングに活かしている。介護計画は、短期目標は、6カ月、長期目標は、1年で見直し、変化があれば随時変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子や健康管理については介護記録に記入し管理日誌には、入居者様毎のケアポイントを記載し職員間で情報共有している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナウイルス感染症の予防として外出や外泊が制限されている。行事（お料理会・出前）等の活動を職員は考え取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	面会や外出の規制がかかっていた為、残念ながら社会資源の活用はできていない。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の往診を受けている。それ以外にもご家族様の付き添いによる他院への受診をすることもできる。訪問歯科は往診か受診かを選ぶことができる。必要に応じて訪問リハビリを施行できる。	従前からのかかりつけ医に家族対応で受診している方1名のほかは、全員が協力医（内科）の訪問診療を月2回受診している。協力医療機関は内科、皮膚科、神経内科があり、24時間オンコールで対応してくれる。隣接の同一法人の訪問看護ステーションの訪問看護師が月2回来所し、健康管理をしている。訪問歯科医は歯科衛生士を同行し、月2回来所している。訪問歯科医は、利用者の入居時に無料の検診を行い、その後必要に応じた治療をしている。眼科などの専門医への通院は、原則家族が対応している。訪問マッサージを受ける方もいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の訪問看護を入れている為、身体状態の把握や情報伝達がスムーズにできている。情報共有を密にし連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療連携を密にして速やかに退院できるように支援している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を定め、同意書を得ている。早い段階から医師、看護師、ご家族様と話し合いを重ね方向性の確認を行っている。GHでの看取りを希望される家族が増えている。	入居契約時に「重度化した場合の対応にかかる指針」と「急変時対応」について事業所の方針を説明して同意を得ている。また終末期と判断した時点で医師も同席して、「看取りに関する指針」により、事業所としてできることなどを説明している。今年度は1名を看取った。看取り後は、振り返りや、家族に対してグリーフケアを行っている。ご逝去された方のご家族が、時折立ち寄ってくれ思い出話をすることがある。看取りの研修は、隣接の介護老人保健施設と合同で職員全員対象に実施している。当日欠席の職員は、資料を読みこみ、レポートを提出している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがある。また、ご入居者様毎に緊急時連絡票や緊急時の同意書がファイリングされ、その他延命治療についての確認は、定期的に更新している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。災害時の業務継続計画や研修を行っている。災害時は同法人施設の協力が得られる体制となっている。	今年度は5月に土砂災害想定避難訓練を行った。10月にはコロナ感染などの影響もあり、DVDの講習を実施している。1月にも夜間想定総合訓練を利用者も参加して行った。災害時は、隣接の介護老人保健施設の職員が協力してくれることになっている。非常災害時の備蓄は、事業所では、お米のローリングストック、隣接の法人施設では、飲料水等を職員分を含めて3日分備蓄している。自家発電装置や食料を温める熱源の用意もある。職員に、備蓄や備品の保管場所や管理に必要な一覧表等の情報を周知している。BCPは作成済みで、11月には法人の合同訓練を実施し、事業所から3名の職員が参加をした。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人様の人格を尊重しプライドを傷つけないよう意識し、その方が安心出来る言葉かけを行っている。その人らしさを大切にしている。	利用者のプライバシー保護や尊厳に配慮して、記録は名前ではなく、部屋番号で記載している。呼び名は名字にさん付けで呼ぶことを基本にしている。居室には、フロアにいる利用者に許可を得て入室している。居室の扉に内側から施錠をする方もいる。排泄時の声掛けは周りに聞こえないように、小声で話しかけ、さりげなく誘導するように心掛けている。接遇や個人情報保護に係る研修は入職時に加え、法人の研修を毎年受けている。家族への接遇は特に配慮を心掛けている。個人情報を含む書類は施錠できる書庫で管理し、パソコンはパスワードを設定して管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一緒にお茶を飲んだり、食事をしたり、入浴介助時のマンツーマンの時間などから得られる個人の発語に耳を傾け、ご本人様の思いや気持ちを感じ取っている。入浴時の衣類選びや移動パン屋では、食べたいパンを選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調を観察しながら個人のペースにあった関わり、無理のない入居者様本位の生活ができるように支援している。入居者様のレベルにあったレク（個別レク）を勧めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服を選んだり、入浴前の着替えを自分で準備したり本人の意思や希望を大事にしている。二か月に一度の訪問理美容ではご本人様の好みの髪形にしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体機能を維持するために、食事の準備や片づけ等、職員と一緒に積極的に行ってもらっている。また、月に2回のお料理会の開催や出前レク等を通じ食の楽しみや供食の意義を大事にしている。	3食とも出来立ての副菜が隣接の介護老人保健施設の厨房から届けられる。ご飯と汁ものは事業所の台所で調理している。麺類の時はホームで温めて提供している。利用者は配膳、下膳、食器拭き等できる事を手伝っている。毎月、利用者が職員と一緒に調理をする「お料理の会」をユニット毎に実施している。各階の利用者の能力に差があるが、出来る事や得意なことを活かして、ほとんどの方が積極的に参加している。外食もできないため月1回の出前や、誕生日、クリスマスなどイベント時のケーキ作り、おやつレク等に利用者の希望を反映させた食の楽しみを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量の計測を行い、健康管理に役立っている。状況によっては医師や看護師等に相談し支持を仰いでいる。また、摂取量の少ない方はご家族様に好みの物をお聞きし提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に2回は衛生士による口腔ケアを行っている。歯科医師や衛生士から、報告やその方に必要な口腔ケアのポイントの助言を受けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し可能か限りトイレでの排泄ができるように支援している。その方の残存能力を可能な限り維持できるよう、すぐにリハパンやオムツにしないような取り組みを勧めている。	以前から排泄の自立支援に力を入れ取り組んでいる。現在、布のパンツを使用して自立でトイレに行く利用者が半数以上いる。夜間は安心のために布パンツにパッドを使用している。その他の方は、排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。日中はリハビリパンツだけの方やパッドを併用している方も、夜間は睡眠を優先して、夜用のパッドに変えたり、ポータブルトイレを使用したり等、個々の排泄事情を考慮して無理のない対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、運動量の把握を行い便秘傾向が見られた際は、水分強化や運動量の確保、長時間トイレの便座に座って頂いたり、腹部マッサージを試みる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	健康状態を確認し、ご本人様の希望を踏まえながらの入浴となる。入浴日を設定しているが、拒否が見られたら、無理強いをせず、ご本人様の意思を尊重する。また、季節感が味わえるように菖蒲湯や柚子湯を提供している	入浴は週2回を基本にしているが、冬場は「寒いから入らない」など、その日の気分によって入浴を好まない方もいる。入浴予定日に敢てこだわらないで、その時々に応じた対応を心掛けている。同性介助の希望にも応じている。現在、入浴時に自身で洗髪までできる方が2名おり、職員は見守っている。湯はかけ流しにして清潔に保ち、足拭きタオルは各個人専用のものを使っている。季節の柚子湯や菖蒲湯を楽しんでいる。脱衣場の床暖房、浴室温風器を備え、冬場のヒートショック対策をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の体調やその日の状況に応じて、日中に臥床時間を設けている。また、安眠が確保出来るように室温や寝具の調整、灯りの調整を行い気持ちよく眠れる環境を整えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬時は、2名の職員で薬をチェックしている。また、薬局から薬情報を確認し、服薬の目的や副作用、効能等を理解するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにあった仕事の分担や役割を提供することで生きがいや、やりがいとなり活性化して日常を過ごすことができる。できる事を積極的に行っていただけるようにアセスメントや情報収集を行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出ができず。屋内で行っていた行事を屋外で行う等の代替策を考え実行している。たとえば、屋外でおやつ時間を設ける取り組み。	ホームの前がバスも通る交通量の多い傾斜のある幹線道路で、日常の散歩には出にくいですが、天気の良い日には、外気浴がてら、前庭兼駐車場になっている事業所の玄関前のアプローチに出ている。利用者は、季節の移ろいを感じながら、お茶を飲んだり、おやつを食べる事もある。日常のゴミ出しや庭での洗濯物干しも気分転換になっている。週に1回、移動バン屋の訪問があり、交代で利用者全員がパンを購入することも楽しみになっている。今年度はレクリエーションの一環で、ドライブを兼ねて、4月に花見、11月に紅葉見物に出かけた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週に1回の移動バン屋でのパン購入は、ご本人様の自己選択、自己決定のいいチャンスであり、食べたい物を自分で選ぶ楽しみに一役かっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたり取り次いだり、大切な方や親族宛の手紙や年賀状など今までの繋がりが途絶えないようにするための取り組みを支援している。入居後も携帯電話を使用している入居者様もいる。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の作品をリビングに掲示している。また、季節ごとの雰囲気を感じられるような飾りつけを行う。カーテンを全開にし陽の光を感じられる環境を設けている。1Fは隣の畑が見え、竹、栗、柿の成長が見える。2Fは富士山が見える。	傾斜地に建てられた建物の2階リビングからは、富士山が望め、1階からは隣地の畑や竹林が良く見える。時折、農作業している方からフェンス越しに野菜のおすそ分けがある。リビングは、2面が窓ガラスで、日当たりがよく明るい。リビングから居室に続く廊下は、落ち着いた色合いで統一され、壁には季節の切り絵や習字、塗り絵などを飾って、季節感を演出している。毎日、清掃時には、利用者も掃除やモップ掛け、手摺りのアルコール消毒等できる事を手伝っている。空気清浄機能搭載の加湿器や、時間を決めた換気で感染症対策をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人様の活動や人間関係を考慮して定期的に席替えを行ったり、車椅子の方は自席では椅子に座り時折ソファに座り替えて過ごしてもらっている。中には居室で一人になって過ごしたいと希望させる方もいるので尊重している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具や物品、茶わんやカップなどは、自宅で使い慣れた馴染みのものを持ってきてもらっている。自宅に最も近い環境の継続をお願いしている。	居室には介護用ベッド、クローゼット、防災カーテン、照明、エアコンが備えてある。利用者は冷蔵庫、チェスト、椅子、テレビなどの生活用品や、ぬいぐるみ、時計など愛着のある物を持ち込み、居心地の良い部屋にしている。日中フロアで過ごす方が多いが、居室に戻ると、テレビを見たり本を読む方もいる。居室担当者と一緒に季節ごとの衣替えをすることもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の何気ない言動に目を配り、気配りを行い本人が出来ること、出来ないことの把握に努め、個々の基本動作、能力に応じた生活が送れるように、どの程度の援助が必要なのかを見極め、次の支援に繋げている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

GHプラチナ・ヴィラ青葉台

作成日

令和6年5月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3.5	身体拘束適正化委員会事業所内で開催が出来ていない。	事業所内での開催。	職員と共に委員会を開催する。また、研修の場を年に4回設けていく。	一年間
2	8	定期的にフロア一会在が設けられていない。	定期的に開催する。	職員の意見交流の場として開催し意見が反映するように努める。	一年間
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。